

(二)作業ノ都合ニ依リ一部ノ早出、居残り又ハ過剰公休セシムル場合アル事

一〇、開工後直ニ全運転ヲ為シ得サル場合ハ会社ノ必要トスル部分ノ工人ヨリ順次ニ出勤セシムル事

一一、二百五十名ノ解雇職工ハ開工前一律ニ宿舍ヨリ退出

セシムル事

昭和四年十一月二十三日

中華民國十八年十一月二十三日

七 中国外交関係雑纂

1 孫文移柩祭および公使館昇格関係

720 昭和4年1月16日 在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

外交団会議において首席公使より国民政府が
孫文葬儀挙行に当り中国駐在外交代表者の参
列を請う旨申越の次第披露について

北平 1月16日後発
本省 1月16日後着

第五四号

十六日外交団会議席上首席公使ヨリ今般南京政府側ヨリ三月二十日南京ニ於テ孫文ノ葬儀ヲ執行スヘキニ付テハ孫個人ニ対シテハ兎ニ角支那革命首領ニ対スル敬意ヲ表シ併セテ支那新政府ニ対スル列国ノ友情ヲ披露スル為列国ノ駐支外交代表者ニ参列ヲ請ヒ度旨申越ノ次第アリタル旨ヲ披露シ且本官ノ間ニ対シ右参列ハ信任状ノ帶有ヲ必要トセサル

コトヲ説明シタル上首席公使トシテハ之ニ好意的考慮ヲ加フル様各本国政府ニ進達方可然旨ヲ述ヘタルニ対シ米仏両公使ハ自分等ハ斯ル儀式ニ列スルコトハ仮令気乗セストモ畢竟義務ノ一ト心得政府ニ請訓スル迄モナク出席スヘシ唯旅行ノ便宜等ニ付首席公使ヨリ支那側ト交渉方ヲ希望スル旨ヲ述ヘ各員皆同意見ナリシカ本官ハ事柄夫レ自身ニハ異存ナキモ本件ハ芳澤公使ニ於テ自ラ考慮スヘキ問題ナリトテ終局的意見ヲ留保シ置キタリ
就テハ芳澤公使カ之ニ参列セラルルコトニ付何等御意見ノ次第モアラハ其ノ旨御回示アリタシ
上海、南京へ転電セリ

721 昭和4年2月(15)日 在上海上村総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

王外交部長より孫文国葬挙行に当り特使派遣
方並び記念樹寄贈を受けたい旨申越について

第一六三号

芳澤公使ヨリ左ノ通

王外交部長ヨリ二月九日附ヲ以テ

(一)本年六月一日ハ孫大總統ノ国葬日ナルカ今回国民政府主席ヨリ友邦ノ特派使節ヲ招待シ該大典ニ参列ヲ請フヘキ旨ヲ諭令アリタル処該大典ハ国家最大ノ盛儀ニシテ且最尊嚴ナル典礼ナルニ付テハ貴国政府ニ於テ專使ヲ派遣セラルカ又ハ專使ノ使命ヲ貴公使ニ附与セラレ之ニ参列セシメラルル様取計ハレタク右專使ノ官氏名ヲ早日ニ回答セラレタク尚国葬葬儀文及專使接待ノ儀礼日程ハ近々送付スヘキ旨

(二)²⁾右大典ノ記念トシテ貴国産ノ木苗一、二種(各種二本乃至四本)ノ寄贈ヲ受ケ植栽スルコトトシタキニ付之ヲ取寄方御配慮アリタク尤モ右ハ必スシモ国葬期以前タルヲ要セサル旨

夫々公文ヲ以テ本使宛照会シ来レリ本件ハ一応各国側ノ振台モ参考トスル必要アルヘキ処卑見トシテハ現在ノ交渉ノ

結果ハ暫ラク別問題トシ国際的儀礼トシテ前頭支那側ノ招請ニ応シ尚適當ノ記念樹ヲ選定シ寄贈スルコトト致シタク就テハ御詮議ノ上何分ノ儀御回訓相成リ本使又ハ堀代理公使ヨリ支那側ヘ回答スルコトト致シタシ王部長来翰訳文郵送ス

北平、南京ヘ転電セリ

722 昭和4年2月26日 在中国堀臨時代理公使より
田中 外務大臣宛(電報)

外交団会議において孫文国葬祭典に特使派遣
方に関し協議について

北平 2月26日後発
本省 2月26日後着

第二〇〇号

上海発閣下宛電報第一六三号ニ関シ

二十六日外交団会議ニ本件上提各國中ニハ通牒ヲ受ケタル国モアリ英仏ノ如ク未タ受ケサル国モアリタルカ首席公使ヨリ孫文ハ僅カ数週間大總統ノ地位ニアリタルニ過キサリノミナラス其ノ死去シタルハ大總統ヲ罷メテヨリ大分後ノ

コトナルカ斯ル人間ノ葬儀ニ專使派遣ヲ要求スルカ如キハ非常識モ甚タシキモノニテ駐支外交団代表者ノ派遣ナラ喜ンテ之ニ応スヘキモ(往電第五四号参照)專使派遣ハ到底問題ニナラスト述ヘタル上順次各員ノ意見ヲ求メタリ右ニ関シ英国公使ハ斯ル問題ハ本会議ニテ兎角ノ議論ヲ為スモ詮ナク各本國政府ニテ先例其ノ他ヲ承知スル「プロトコール」係ノモノヲシテ取調ヘシメ元大總統ノ葬儀ニ各本國公使使ヲ派遣スルコトカ果シテ面白カラサル先例ヲ作ルコトトナルヤ否ヤヲ確メタル上ニテ成ルヘク各國同一ノ歩調ニ出ツルコト然ルヘシサレト自分当座ノ思付トシテハ專使派遣ハ大袈裟ナリト考フルト述ヘタルカ本官ハ日本ハ芳澤公使ノ方ニテ通知ヲ受ケ政府ハ同公使ヨリ「フエボラルブル」ノ意見ヲ附シテ報告セラレタル様ナルカ若シ專使ニ国書カ必要条件ナリトセハ日本政府カ如何決定スルヤ疑問ナリト述ヘタル処各員ハ一致シテ專使ト謂ヘハ国書ノ附帶スルコト当然ナリト謂フ意見ヲ述ヘタリ其ノ他各國ノ使臣ハ大同小異ナルモ大体英国公使ト同様ノ意見ヲ述ヘタルカ更ニ話合ノ結果先ツ米仏兩國ノ代理公使ニ依頼シテ其ノ本國ニテ元大統領ノ葬儀ニ各本國ノ特使ヲ迎ヘシ先例アリヤ否ヤヲ調

査ノ上公使団限リノ纏レル意見ヲ各本國政府ニ報告スヘシト謂フニ意見纏レリ尚本官ヨリ苗木ノ寄贈問題ニ関スル各員ノ意見ヲ問ヘルニ「トマト」ニテモ贈ルヘシト茶化スモノアリ首席公使ハ和蘭ノ苗木ヲ「スエズ」廻リニテ送り越スカ如キハ困難ニテ問題ニナラスト述ヘ何レモ真面目ニ考フルモノナカリシカ此ノ点ハ再ヒ集會ノ際或ハ議題トナルヤモ知レス

上海、南京ヘ転電セリ

723 昭和4年3月(6)日 在英国松平大使より
田中 外務大臣宛(電報)

英国は孫文国葬に皇帝の特命に依る趣旨で駐
在公使を参列させる意向について

ロンドン 発
本省 3月6日前着

第九二号

四日往電第九一号佐分利ヘノ談話ノ際極東部長代理ハ六月南京ニ於テ挙行セラルヘキ孫文ノ葬儀ニ特使派遣方支那側ヨリ申出アリタルニ対シ英国ハ特ニ使節ヲ派遣セス皇帝ノ

特命（スペシャル、コンマンド）ニ依リ皇帝ヲ代表スル趣旨ニテ「ラ」公使ヲ参列セシムルコトトシタキ考ヘナリト内話セリ何等御参考迄

724 昭和4年3月13日

在中国堀臨時代理公使より
田中外交大臣宛（電報）

首席公使が回覧した孫文国葬参列方に関する

英国政府訓電内容について

北平 3月13日後発

本省 3月13日後着

第二五三号

往電第二四八号ニ関シ

十三日首席公使ヨリ英国公使ノ受取レル本国政府訓電ノ内容ヲ回覧ニ附シ来レルカ其ノ要領ハ英国政府ハ孫文ノ支那ニ於ケル地位ニ鑑ミ本件ヲ先例ニ依リ決定スヘキモノナリトハ考ヘス孫文カ曾テ大總統タリシ事実ハ彼ノ偉大ナル国民的意義ニ対シテハ補足的ノモノニ過キス去リトテ英国政府ハ非職中死去セル外国著名ノ一政治家ノ葬儀ニ当リ在外使臣ニ正式ノ信任状ヲ発スルコトヲ好マサルノミナラス其

ノ信任状ノ内容ノ起案ハ困難ナリ從テ信任状ヲ省キ只

「ラ」公使ニ対シ其ノ立場ヲ明瞭ナラシムル為（en clair）

訓電ヲ寄セ「ラ」ハ右電報ヲ国民政府ニ呈示シ以テ「ラ」

ニ於テ陛下ヲ代表シテ参列スヘシトノ勅諭ヲ受ケ居ル旨ヲ

通告スルコトト致度意嚮ニテ「ラ」ハ本国政府ノ訓令ニ依

リ列国ニ於テ右或ハ之ニ類似ノ方法ニ依ラルルコト能ハサ

ルヤ否ヤヲ確メタク列国側ノ意嚮承知次第「ラ」ヨリ本国

政府ニ電報シ政府ニ於テ陛下ノ御允可ヲ仰クヘシト云フニ

アリ

右ノ次第ナルヲ以テ結局各国側ヨリ右英国側ノ提案ニ依リ

意見ヲ述ヘルコトトナルヘキニ付テハ右提案ノ趣旨ニ関ス

ル御意見又ハ其ノ他ノ御考案モアラハ至急御回電アリタシ

上海、南京へ転電セリ

725 昭和4年4月12日

在中国堀臨時代理公使より
田中外交大臣宛（電報）

外交団会議における孫文国葬参列方に関する

英国案の討議について

キヤヲ問合スヘク若シ英国政府ニ於テ夫レニテ可シトノ意嚮ナラハ其ノ案ニテ更ニ外交団会議ノ意嚮ヲ纏ムルコトトナリタリ

本件ニ関シテハ其ノ後一向御回示ナキモ大体此ノ辺ニ同意セラレ然ルヘキヤニ存セラル

尚樹木ノ問題ニ付仏国公使ハ同国ハ「ブラタヌ」ヲ多数寄贈スヘキ旨ヲ述ヘ次テ自由談話ノ形式トナリタルトキ公使中ニハ当日張子及花環ノ双方又ハ一方ヲ寄贈スヘシト言ヒ

出スモノアリ但シ之ヲ贈ルニシテモ公使ノ名義ニテ供フルカ本国政府ノ名ニ於テスヘキカトノ話モ出テ英国公使ハ本国政府ノ名ニ於テスヘシト言ヒ和蘭公使ハ個々ニテ贈ルヘ

シト述ヘ居タリ御参考迄

上海、南京へ転電セリ

726 昭和4年4月16日

田中外交大臣より
在中国堀臨時代理公使宛（電報）

孫文国葬に在中國公使を特派使節又は大使と

して参列方奏請することに決定について

付記 三月十八日付在中國芳澤公使の孫文国葬使節

本省 4月16日後3時20分発

第八三号

貴電第三四〇号ニ関シ当方トシテハ支那政府ノ希望ニ応ジ在支公使ヲ特派使節又ハ大使トシテ参列方奏請スルコトニ決定セリ尤モ御信任状ニ関シテハ先般御大札ニ際シ各国特派使節等ノ任命ニ当リ特ニ信任状ノ捧呈ヲ要求セズ只公式ノ通牒ニテ差支ナキ旨決定シタル事例モアリ(実際ニ於テハ各国共信任状ヲ捧呈セリ)現ニ汪公使ハ信任状ナシニ特派大使ニ任命セラレタル次第ナルヲ以テ右在支公使ノ特派使節等任命ニ当ツテモ御信任状ノ御下付ヲ奏請セザル積ナルニ付右含ニテ適宜御措置アリ度シ尙記念樹ノ寄贈ニ関シテハ各国ノ振合ニ依リ何レトモ決定致度シ

(付記)

高裁案

起案 昭和四年三月十八日
決裁 同 月 日

デ英国政府モ孫文ノ支那ニ於ケル地位ニ鑑ミ本件ハ必ズシモ先例ニ拘泥セス支那駐劄公使ヲ特使ニ任命ノ意嚮ヲ示スニ至レリ。

要スルニ北平ニ於ケル外交団會議ハ未タ何等決定ニ至ラザルモ帝国政府ニ於テハ前記ノ通り芳澤公使ノ意見モアリ又英米兩國ノ意嚮モ大体判明セルヲ以テ右国葬ニ参列ノ為メ同公使ヲ特派大使又ハ特派使節ニ任命方奏請スルコト、決定致度御信任状ニ関シテハ御大札ニ際シ支那カ本邦駐劄公使ヲ特派大使ニ任命シタルニ拘ラス信任状ヲ有セス又最近本邦ニ於ケル取扱振ハ其国駐劄公使ヲ特派使節ニ任命ノ場合ハ御信任状ヲ発給セス特派大使ニ対シ御信任状ヲ発給スル慣例ナルモ従前(大正十年以前)ニ特派大使及特派使節ニ対シ御信任状ヲ下付セザリシ事例多カリシ次第ニ付本件ノ特派大使又ハ特派使節ニ対シテハ御信任状ノ御下付ヲ奏請セザルコトト致度又記念樹ニ関シテハ追テ各国ノ振合ニ依リ寄贈スルモ差支ナキ程度ニ決定シ置キ度

右仰高裁

昭和四年六月一日孫大總統ノ国葬日ニ当リ友邦ノ特派使節ヲ招待シ該大典ニ参列ヲ請フコトナリタル趣ニテ日本政

府ニ於テ專使ヲ派遣セラル、カ又ハ專使ノ使命ヲ芳澤公使ニ附与セラレ之ニ参列セシメラルル様取計ハレ度又右大典ノ記念トシテ本邦産木苗一、二種(各種二本乃至四本)ノ寄贈ヲ受ケ植栽スルコトト致度旨王外交部長ヨリ在上海芳澤公使宛公文ヲ以テ照会アリ之ニ対シ同公使ヨリ現在交渉ノ結果ハ暫ラク別問題トシ國際的儀礼トシテ支那側ノ招請ニ応シ尙適當ノ記念樹ヲ選定寄贈スルコトト致度旨申越ノ次第アリ。

本件ハ北平ニ於テ外交団會議ニモ上提セラレタル処第一回ノ會議ニ於テハ孫文ノ經歷地位並其死去シタルハ大總統ヲ罷メテヨリ大分後チノコトニ属シスル葬儀ニ專使派遣ヲ要求スルカ如キハ非常識モ甚タシキモノニテ駐支外交団代表者ノ派遣ナラバ喜ンデ之ニ応スヘキモ專使派遣ハ到底問題ニナラストノ説多ク一般ニ冷淡ノ態度ヲ示シタルモ其後米國々務省ハ專使ノ派遣方ハ外交部長ノ申出ニ係リ且葬儀ハ国葬ナルニ鑑ミ右申出ニ応シ專使ヲ任命スルヲ適當トシ又公使ヲ以テ專使トシ度キ意嚮ナル旨同国代理公使ヨリ申出

727 昭和4年4月22日

田中外務大臣より
在中国堀臨時代理公使宛(電報)

我が方としては孫文国葬に在中國公使を特派
使節又は大使に任命の意向について

本省 4月22日後4時発

第九六号

貴電第三七四号末段ニ関シ当方トシテハ各国トノ振合ニ依リ在支公使ヲ特派使節又ハ大使ノ何レカニ任命シ度キ趣旨ナルニ付右ニテ可然応酬セラレ度ク貴電ハ往電第九二号ト行違ヒ発電セラレタルモノト思ハル、モ為念

728 昭和4年4月23日

在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

外交団會議における各国代表者の意向は特派
使節派遣を好ましとすることにについて

北平 4月23日後発
本省 4月24日前着

第三八四号

貴電第九二号及九六号ニ関シ

二十三日附ヲ以テ首席公使ニ対シ貴電ノ趣旨ヲ通報スルト
共ニ本官ノ意見トシテ十九日ノ外交団會議ニ於ケル列国代
表者全部ノ意見ハ特派使節派遣ノ方好マシトスルニアリタ
ルニ鑑ミ日本政府ニ於テ大使ヲ派遣スル様ノコトナカルヘ
シト信スル旨ヲ通知シ置キタリ

尚英國公使館辺リニテハ既ニ往電第三四〇号張子作製ニ
引掛リ居ル模様ナルニモ顧ミ本邦ヨリモ寄贈セラルル意嚮
ナルニ於テハ当方ニ於テ適宜準備致スヘキヤ將又張子ニ記
載ノ關係モアリ我方使節ノ正式名義ハ如何発令セラルルヤ
右ノ諸点併セテ御回電アリタシ
上海、南京へ転電セリ

729 昭和4年5月3日 在南京岡本領事より
田中外交大臣宛(電報)

王正廷が米国側において在中国公使館を大使
館に昇格する意向がある旨並に日本は他国に
率先してこれを実行するよう促憑してきたと
の芳澤公使報告

依テ本使ヨリ正式承認ノ方法ノ如キハ如何ト述ヘタルニ王
ハ過日貴公使ハ日本ハ既ニ事実上ノ承認ヲ了シ居ル旨語ラ
レ又天長節ニ際シテモ両国軍艦ニ於テ礼砲ヲ交換セル次第
ニテ正式承認ハ完了モ同様ナルニ付此ノ上其ノ必要ナシト
語リタリ
北平、上海へ転電セリ

730 昭和4年5月3日 在南京岡本領事より
田中外交大臣宛(電報)

国民政府は日本側の同政府正式承認よりも大
使交換の方を希望しているとの芳澤公使報告

南京 5月3日後発
本省 5月4日前着

第四七三号(極秘)

芳澤公使ヨリ

往電第四七二号ニ関シ

本使帰朝ノ上御協議ニ及ヒ度キ一事項ハ六月一日孫文遺骸
奉安式直前ニ於テ国民政府ニ対シ正式承認ヲ与ヘ度キ点ナ
リシ処右往電ニテ御承知ノ通国民政府ニ於テハ正式承認ハ

第四七二号(極秘)
芳澤公使ヨリ

昨二日夜王正廷ノ晚餐後本使ヨリ王ニ対シ済案始メ重要懸
案解決シタルヲ以テ帰朝ノ上政府当路ト協議シ両国關係改
善ニ関シ一層有効ナル方法ヲ講シ度キ所存ナリト告ケタル
処王ハ極秘ニ願ヒ度シトテ左ノ通述ヘタリ

駐米公使施肇基帰国シ報告スル処ニ依レハ同公使華府出発
前國務卿「ケロツグ」ニ面会ノ際國務卿ハ近ク在支同国公
使館ヲ大使館ニ昇格ノ意志アリ 南京ニ於テ大使館敷地ヲ
買入レ度キ希望ナリ又六月カ七月ニハ議會方面ヨリモ人ヲ
派遣シテ状況ヲ視察セシムル筈ナリト語レル趣ナリ米國ハ
御存シノ如ク率先シテ関稅自主ニ関スル条約ヲ締結シ兩國
国交改善ニ寄与シタルコト尠カラス就テハ日本ニ於テモ此
ノ際他國ニ先ンシテ何等カノ好意ヲ示サルレハ國民對貴國
感情ヲ融和セシムル上ニ於テ好影響ヲ与フコト少カラサル
ヘク前述大使館昇格ノ如キ差当リノ好問題ナルニ付日本ニ
於テ他國ニ先ンシテ実行サルルヲ得ハ幸甚ナリ

今日重要視セス却テ大使交換ヲ希望スルコト明カトナリタ
ル次第ナル処大使交換ハ本国政府ニ於テモ何等不利無キ問
題ニシテ且數年來準備モ出来居ル次第ニ付支那側ノ希望ヲ
モ斟酌シ六月一日以前ニ之ヲ決シテ孫文祭ニモ大使ヲ派遣
セラルル方時宜ニ適スヘシ只北京外交団ノ意向ヲ酌ミ早目
ニ外交団ニ通知ノ必要アルヘキニ付此ノ際至急御詮議相成
方可然ト思考セラル
支、上海へ転電セリ

731 昭和4年5月(4)日 在上海重光總領事より
田中外交大臣宛(電報)

王正廷より国民政府は駐日公使を大使に昇格
したい意向につき其の所見を求められたとの
芳澤公使報告

付記 昭和四年一月付

「在支帝國公使館昇格問題」

上海 発
本省 5月4日後着

第六一一号

南京 5月3日後発
本省 5月4日前着

芳澤公使ヨリ

往電第六〇九号会見ノ際王ハ御懇談シタキ三問題アリトテ
一、漢口水案（別電第六一二号ノ通）二、大使交換問題
三、輸出附加税及陸境関税問題（別電第六一三三号ノ通）ノ
三件ヲ持出シタルカ其ノ中第二ノ問題ニ関シテハ王ハ国民
政府ニ於テハ速ニ駐日公使ヲ大使ニ昇格シタキ考ヲ有スル
処右ニ対スル貴公使ノ所見ヲ伺ヒタシト述ヘタルニ付本使
ハ右ハ大使交換ノ意向ナリヤト反問シタル処王ハ然リト答
ヘタリ依テ本使ハ現在日本政府ニ於テ如何ナル意向ヲ有ス
ルヤハ之ヲ承知セサルモ政府ハ既ニ大正十四年以来在支公
使館ヲ大使館ニ昇格スルノ方針ヲ定メ爾来毎年豫算ヲ計上
シ居ル次第ナリ若シ国民政府ニ右様ノ希望アラハ喜ンテ之
ヲ政府ニ取次クヘント述ヘタルニ王ハ現在ノ汪駐日公使ハ
早晚更迭ノ筈ナル処国民政府トシテハ公使若ハ大使ノ何レ
ノ資格ニ依ルカニ從ヒ其ノ後任ノ人選モ異ル次第ナルニ付
速ニ日本政府ノ意向ヲ承知スル必要アル訳ナリト述ヘタル
ヲ以テ然ラハ右昇格ハ何日頃実行スル考ナリヤト尋ネタル
処早キ程都合好シト答ヘタリ
次ニ本使ヨリ既ニ他ノ国ニ対シテモ同様ノ提議ヲ為シタル

（付記）

在支帝国公使館昇格問題

（昭和四年一月）

一、本件ニ関スル日支両国政府間ノ交渉

大正十三年五月三十一日露支協定成立シタル後兩國間ニ
大使交換ノ議起レルヤノ説アリシカ支那代理公使ハ本国
政府ノ訓令ニ基キ『カラハン』ハ大使交換問題ニ付頻リ
ニ支那政府ニ迫リ居ル処支那政府ハ日支兩國ノ間ニ速ニ
大使交換ノ運ニ至ル様切望スル旨申出テタリ（本件支那
側申出ハ同時ニ英米仏伊各国政府ニ対シテモナサレタル
モノナリ）

次テ七月十八日支那代理公使ヨリ支那政府ハ七月十四日
『カラハン』ニ対シ大使交換ヲ承諾スル旨回答シタルヲ
以テ帝國トノ間ニモ速ニ大使ヲ交換シタキ趣ノ外交部電
訓ヲ提出シタリ

右ニ対シ七月二十五日帝國政府ハ同代理公使ニ対シ左記
覚書ヲ交付セリ

帝國政府ハ本問題ヲ決スルニ当リ支露兩國間ニ於ケル
同一問題ノ経過ヲ考量ニ加フルノ必要ヲ認メサルモ外
交部電訓中ニ指摘セラレタル主要ノ趣旨ニ付キテハ豫

ヤ若シ然リトセハ何レノ国々ニ向ヒテ之ヲ為シタリヤト尋
ネタルニ王ハ最近英米仏ノ三国ニ対シ別々ニ提議ヲ為シタ
ルカ今回独逸ニ対シテモ同様之ヲ為ス考ヘナリト答フルト
共ニ日本ハ正式ノ照会ニヨリ提議ヲ必要トセラルルヤト問
ヒタルニ付本使ハ唯今ノ申出ニテ差支ナシト答ヘタル処王
ハ先ツ非公式ニ打合セタル上改メテ正式ノ提議ヲ為ス事ト
致度シ英米仏各公使ニ対シテモ口頭ヲ以テ申出ヲ為セリ
（英國公使ニ対シテハ昨年末英米兩國公使ニ対シテハ前回
来寧ノ際即チ本年二月）ト述ヘタルニ付然ラハ右等各国公
使ハ如何様ノ返事ヲ為シタルヤト尋ネタルニ何レモ個人ト
シテハ賛成シタルモ政府ニ請訓スヘシト一応ノ挨拶アリタ
ル儘其ノ後末タ政府ノ意嚮ヲ回答シタルモノ無シト述ヘタ
ルニ付本使モ個人トシテハ賛成ナル旨答フルト共ニ国民政
府ニテハ駐日大使ノ候補者ハ既ニ人選済ナリヤト推問シタ
ル処王ハ之カ前提タル昇格問題未タ決定セサル為人選モ出
来居ラスト答ヘタルニ依リ本使ハ御意嚮ハ良ク了解シタル
ニ付早速政府ニ報告スヘシト述ヘ置ケリ
北平、南京ニ転電セリ

テ慎重詮議中ニ属シ追テ何分ノ議決定次第速ニ回答ス
ヘシ

二、本件ニ関スル帝國政府及英米仏伊各国間ノ交渉

元来本問題ハ多年帝國政府ノ考慮中ニ存シタル所ナルカ
政府ハ日支国交ヲ重要視スルノ趣旨ニ依リ此機会ニ於テ
兩國間ニ大使ヲ交換スルノ方針ヲ決定シ在北京帝國公使
館ノ昇格ハ成ルヘク十三年度通常議會ニ於テ右所要經費
ノ協賛ヲ得タル上十四年四月一日ヲ以テ之ヲ実行スルコ
トニ決シ幣原大臣ニ於テハ大正十三年七月十一日在本邦
英米仏伊四国代表者ヲ招致シ左記趣旨ノ口上書ヲ手交シ
タリ（以上大正十三年七月八日閣議決定）

一、帝國政府ハ主義上ノ問題トシテハ支那トノ間ニ大使
ヲ交換スルコトニ決定セルモ其ノ実行期日ハ豫算其ノ
他ノ關係ニ依リ未タ確定スルコトヲ得ス

二、帝國政府ニ於テ前記ノ主義ヲ決定スルニ至リタルハ
日支兩國間ノ關係カ帝國ニ取リ極メテ重要ナルコトヲ
考慮セルカ為ナル処關係國政府ニ於テモ同様支那トノ
間ニ大使交換ノ主義ヲ決定セラルル場合ニハ帝國政府
ハ此等諸國ト共同シテ支那政府ニ対シ右実行期日ニ関

スル適當ナル留保ヲ附シテ不取敢本件主義ノ決定ヲ内告セムコトヲ提議ス

三、本件実行期日ニ付テハ各国各自ノ国内的事由ニ依リ同一ノ期日ヲ定ムルコト事実上困難ナルヤモ計リ難キモ帝國政府ハ事情ノ許ス限り成ルヘク各国ノ一致ヲ以テ決定スルニ至ラムコトヲ希望ス

四、帝國政府ハナルヘク来年四月一日ヲ以テ本件実行ノ意思ヲ有ス

然ルニ他面英國政府ハ曩ノ支那政府申出ニ對シ露支兩國間ノ大使ノ交換ヲ以テ英支兩國間ニ於テ同様ノ問題ヲ考慮スヘキ機会タラシムヘキ何等ノ理由ヲ發見セサル旨ヲ回答セル旨又日本政府ニ於テ國際協調ノ本旨ニ依リ英國政府ノ見解ニ同意シ支那政府ニ對シ同様ノ意味合ニテ回答センコトヲ望ム旨並ニ同趣旨ノ公文ヲ米仏伊各國大使ニ送リタル旨ノ七月十一日附公文ヲ在英林大使ニ送致セリ

次テ在本邦米國代理大使ハ七月十五日幣原大臣ヲ來訪シ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ米國政府ハ支那政府ニ對シ此ノ際ハ北京ニ於ケル外交使節ノ地位ヲ變更スヘキ機会ニアラスト思考スル旨回答セルカ日本政府ノ決定ニシテ未タ最

終的ノモノニアラサルニ於テハ國際協調ノ本旨ニ顧ミ再考アラシムコトヲ希望スル旨申出テタリ次テ仏國大使ヨリモ幣原大臣ニ對シ七月十八日附公文ヲ以テ仏國政府ハ支那政府ニ對シ大使交換ノ提議ニ応スルコト能ハサル旨回答シタルコトヲ通報シ來レリ

又八月一日伊太利大使幣原大臣ヲ來訪シ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ支那ノ混沌タル現状ニ顧ミ今日ハ昇格実行ノ時機ニ非スト認メラルルカ故ニ國際協調ノ本旨ニ依リ帝國政府ニ於テモ支那ノ申出ヲ拒絕セラレ度シト申出タリ次テ八月一日英國大使ハ幣原大臣ヲ訪問シ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ列國ハ支那政府ニ對シ支那カ秩序及統一ナク又外國人ノ權利カ充分保全セラレサル限り列國ニ於テ在北京使節ノ地位ヲ變更スルノ意向ナキコトヲ通告スルコト可然ト思考セララルル処若シ帝國政府ニ於テ右ノ趣旨ニ依リ在北京代表者ニ訓令方同意セラルルニ於テハ英國政府ハ同地英國公使ニ對シ日本代表者ト協同行動ニ出ツル様訓令スヘキ旨提言セリ

又八月九日米國代理大使幣原大臣ヲ來訪シ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ米國政府ハ本件ニ關スル英國政府ノ提議ヲ

承知シタルカ右提案ハ米國政府ニ於テモ異議ナキ処若シ日本政府ニ於テ異議アラハ之ヲ固執スルノ意ナキモ何レニスルモ大体現在支那ノ不満足ナル狀態カ匡正サルル迄昇格実行ハ時機尚早ナリトノ意味ニテ日本政府ト協同シ支那政府ニ申入ルコトト致度旨申出テタリ叙上各國政府累次ノ申出ニ對シ帝國政府ハ適宜我方ノ意嚮ヲ説明シタルカ八月九日米國代理大使ノ申出ニ對シ幣原大臣ハ大要左ノ通応酬セ

リ

列國協調ノ本旨並ニ帝國及他列國ノ立場ニ顧ミ此ノ際我方トシテ為シ得ルコトハ結局昇格ニ關スル支那ノ要請ヲ承諾スヘキ確定的ノ回答ヲ數ヶ月例ヘハ本年末頃迄延期スルコトニシテ若シ本年末迄ニ列國ニ於テ昇格実行ニ差支ナキ程度ニ支那時局改善ノ徵候アルヲ認メタルトキハ帝國ト共同ニテ昇格承諾ノ回答ヲ為スコトヲ得ヘク尚列國カ必要ト認ムルニ於テハ右共同回答中支那政府ニ要請スルニ同政府カ外國人ノ生命財産ノ安固ヲ確保シ且國際義務ヲ履行スル為メ最モ有効ノ手段ヲ執ルヘキコトヲ以テスルノ申入ヲ附言スルコトトナスモ可ナリト思考ス尤モ日本政府カ右ノ如ク支那政府ニ對スル回答延期ノ意思

ヲ表明セルハ之カ為メ(一)明年度ノ我豫算中ニ昇格ノ費目ヲ計上スルヲ妨ケサルコト並(二)本年十二月末ニ至リ帝國政府ト列國政府トノ間ニ昇格ノ実行ニ關スル意見尚一致セサルトキハ帝國政府ハ不得已單獨ニ支那政府ニ回答スル場合アルヘキコトハ誤解ナカラムコトヲ希望ス

八月十二日ニハ在本邦白國代理公使モ來省シ同國政府ハ支那現下ノ政局ニ鑑ミ支那ニ於ケル公使館昇格ハ時機尚早ナリト思考シ居ル旨申出テタリ

三、昇格費豫算ノ成立

其後奉直戰爭(十月)段臨時執政ノ就任(十一月)等支那政局ニ變動アリ昇格問題モ別ニ新ナル發展ヲ見サリシカ我政府ハ既定方針ニ基キ大正十四年度豫算ニ昇格費目ヲ計上要求セル処第五十議會(大正十四年)ニ於テ協賛ヲ得大正十四年度經常費トシテ九、六〇〇円ヲ計上セラレタリ

四、本件ニ關スル段新政府ノ態度

大正十三年度十一月末成立セル段執政政府ハ本件ニ關スル我方ノ方針ニ對シ頗ル好感ヲ以テ之ヲ迎ヘ大正十四年

一月一日張代理公使ハ出淵次官ヲ来訪シ公使館昇格問題ニ関スル日本政府ノ決定ニ付謝意ヲ表シ次テ八日ニハ同代理公使ハ本国政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ支那ハ遠カラス露国ニ大使ヲ派遣スル意嚮ナルカ支那トシテハ日支国交ヲ重ンスル趣旨ニ依リ先ツ日本ト大使ノ交換ヲ了シタキニ付日本ヨリ成ル可ク速ニ大使ヲ派遣セラレムコトヲ希望スル旨申出タリ

我政府ハ大正十四年四月一日ヲ以テ昇格ヲ実行スヘキ意嚮ナリシ処其期日ニ及フモ実行ノ運ニ至ラス、然ルニ昇格費豫算ノ議会通过ヲ見テ新聞紙等ニハ種々新大使任命ノ噂伝ハリ直チニ大使館昇格ノ実行ニ移ルコトヲ決定セルカニ伝ヘラレ四月二十七日支那代理公使ハ「支那ニ対シ日本ヨリ大使ヲ新ニ派遣セラルル様承リ居ル処支那側ニ於テモ殆ト同時ニ大使ヲ日本ニ派遣シタキ希望ヲ有スルニ就テハ新任西班牙公使ノ国書正式提出ノ例ニ準シ日支相互ニ正式ニ国書ヲ提出スル様致シ度キ」旨申入レタルヲ以テ我方ハ之ニ対シ「既ニ在支日本大使館經常豫算ハ議會ヲ通過シタルヲ以テ新聞紙等ニハ種々大使任命ノ噂伝ハリヲルモ本邦政府ニ於テハ何等大使昇格ヲ決定シ

又何人ヲ大使ニ任命スルヤ全然未定ナル」旨答ヘタリ

五、英国政府ヨリ公使昇格延期方申入

本件豫算ノ議会通过後大正十四年三月二十七日英国大使来省シ日本カ豫テ計画ノ通り支那ニ新大使ヲ任命派遣スル意アルヤヲ質問シ支那現下ノ状態ニ於テ日本カ大使ヲ派遣セラルルコトハ段政府承認問題ヲモ含ムモノナレハ茲數ヶ月任命ヲ控ヘ英国政府ト意見交換ヲ進メラレ度旨申入レタルニ付我方ハ日本ノ駐支大使任命ハ何等承認問題ニ抵触スルモノニ非サル理由ヲ説明シ且日本ハ曩ニ昨年十二月末迄ハ大使派遣ニ付支那側ニ対シ何等確答ヲ与ヘサル旨約束シ之ヲ恪守セルカ右約束期間モ經過シ我議會モ公使昇格ニ関スル豫算ニ協賛ヲ与ヘタル今日トナリ漠然大使任命ヲ延期スルヲ得ス之ヲ延期セストテ日本政府ノ英国ニ対スル友情ニ渝アルヘキ謂レナシ但右任命期ハ未タ明言スヘキ時機ニ達セスト答ヘタリ

其後英国政府ハ更ニ延期方申入ルル処アリ即チ五月十八日英国大使ハ幣原大臣ヲ来訪シ本国政府ノ訓令トシテ支那段執政ニ対シ国書ヲ捧呈スレハ右ハ段臨時執政政府ヲ法律上ノ政府トシテ承認スルコトナルハ国際法上疑ヲ

容レサル所ナルヲ以テ日本カ支那ニ大使ヲ派遣スル場合

ニ於テモ国書ヲ捧呈セサルコト致シタク尚本件ニ付キテハ意見交換ヲ遂ケ度ニ付日本ニ於テモソレ迄大使任命ヲ待タンコトヲ望ム旨申入レタリ。幣原大臣ハ任命延期ノ申入レハ日本政府ニ於テ承認シ能ハサル旨ヲ説明シ承認ノ法理ニ関スル英国政府ノ意見ハ了解ニ苦シム次第ナルカ要スルニ英国ノ心配ハ新大使ノ国書捧呈カ段政府ヲDe jure 政府トシテ承認スル結果トナル点ニ存スルヲ以テ右ノ点ニ関シテハ英国ニ迷惑ヲ掛ケサル様国書ノ宛名ニ付目下考究中ナリト答ヘタリ

六、昇格問題ノ停頓

上述ノ如ク我在支公使館昇格ノ件ハ日支關係ノ大局ニ鑑ミ主義上既ニ決定シ居リ乍ラ其後支那時局變転ノ為之カ実行ノ時機無ク昭和元年四月段執政ハ張吳聯合勢力ノタメニ北京ヲ放逐セラレ下野スルノ已ナキニ立至リ爾後ノ北京諸政府及之ニ拮抗セル南京政府ハ何レモ列国ノ承認ヲ受クルニ至ラス昇格問題モ何等具体的發展ヲ見スシテ今日ニ及ヘリ

732 昭和4年5月8日

在米国出淵大使より
田中外務大臣宛(電報)

在中国公使館昇格問題に關し意見具申

ワシントン 5月8日後發
本 省 5月9日後着

第一四八号

往電第一四四号ニ関シ卑見左ノ通上申ス

帝國政府ハ大正十三年支那側ヨリ昇格方申出ニ接スルヤ英、米、仏、伊四国ト懇談ヲ重ネタルモ意見ノ一致ヲ見ス遂ニ我方ハ単独行動ヲ留保シ所要經費ヲ豫算ニ計上スルニ至レルカ支那政変ノ為之カ実行ヲ遷延シ今日ニ及ヘル次第ナリ

然ルニ曩ニ日支関稅協定成立スルト共ニ我方ニ於テ国民政府ニ対シ事實上ノ承認ヲ与ヘ次テ濟南事件等モ解決シ支那各地ノ排日運動次第ニ緩和シ来リ追々昇格問題ヲ詮議スヘキ時期ニ近ソキツアルモノト思考セラルル処右ニ付テハ理論上ヨリ云ヘハ我方トシテハ既ニ単独行動ヲ留保シ且經費支出ノ途モ定マレル關係上必要ニ応シ何時タリトモ昇格実行差支ナキ義ナルカ

(一)客年十月米國側ヨリ本件ニ関スル我國ノ意嚮ヲ尋ネ来リ
我方ハ之ニ対シ時期尚早ト認ム旨ヲ回答スルト同時ニ
本件ニ付協調ノ望マシキ事ヲ切言シタル結果米國政府ハ
其ノ態度ヲ決定スルニ先立チ必ス今一応我國ニ相談スヘ
キ旨ヲ約束シタル行懸アル事

(二)大正十三年當時ハ北京カ首府タリシ關係上問題比較的簡
単ナリシモ既ニ南京遷都ヲ決行セル以上國民政府ノ地歩
愈々鞏固ヲ加ヘ来ルト共ニ支那側ハ必スヤ熱心ニ公使館
移転問題ヲ提議シ来ルヘク右ニ付テハ種々ナル不便ノ伴
フモノアリテ到底手輕ニ応酬シ得サル事申迄モ無キモ去
リトテ列國側ニ於テ無下ニ是ニ反對出来難キハ勿論國民
政府ノ見据ヘ付クニ伴レ寧ロ好意的考慮ヲ加フル事至当
ナルヘク列國中ニハ支那側ノ歛心ヲ買ハムカ為或ハ逸早
ク单独移転ヲ実行スルモノ無キヲ保シ難カルヘキ事ノ二
点ニ付特ニ慎重考慮ヲ要スル次第ナリ

惟⁽²⁾フニ我方ニ於テ支那側申出ニ対シ好意的考慮ヲ加ヘント
スル場合ニハ先ツ第一ニ國際協調ノ点ニ重キヲ置キ大正十
三年當時ノ關係ノ如キハ別問題トシ専ラ支那ノ新事態ト將
来ニ於ケル傾向トヲ念頭ニ存シツツ英米其ノ他主要關係國

ト懇談ヲ遂ケ当面ノ昇格問題ニ付テモ亦将来起リ来ルヘキ
移転問題ニ付テモ出来得ル限り一致ノ行動ニ出ツル方針ノ
下ニ徐ニ我方態度ヲ決定スルコト然ルヘクト存ス從來米國
ノ對支政策變転極マリナキコトハ御承知ノ通ナルモ支那ニ
對シ機會アル毎ニ好意ヲ売ラントスルノ態度ハ殆ト終始一
貫シテ變ラサル処ニシテ「フーバー」政府モ亦國民政府今
後ノ提議如何ニ依リテハ恐ラクハ昇格問題ニ付好意的態度
ヲ表示スルニ至ルヘシト思考セラルル処一方米國政府ハ客
年七月列國ヲ出シ抜キ關稅條約ヲ締結シ率先國民政府ヲ承
認シタルモ其ノ後昇格問題及一般條約改訂就中治外法權問
題ニ関シ相當協調的態度ヲ示シ殊ニ本年二月十九日國務長
官口上書ハ单独行動ヲ留保シツツモ著シク協調ノ精神ヲ発
揮シツツアルニ顧ミ此ノ際我方ニ於テ此ノ上トモ協調ノ誠
意ヲ披瀝シ出来得ル限り之ヲ指導シ行クコト最モ得策ナリ
ト認ム以上ノ卑見ハ事新シク申迄モナキモ最近一兩年來著
シク緊張セル我對支關係ニ顧ミ我國政界ノ一部ニハ比較的
実行容易ナル昇格問題ヲ捕ヘ拔駭的ニ好意ヲ示シ以テ日支
改善ニ資セントノ議論擡頭スルヤモ計リ難シト思考シ御參
考迄ニ申進スル次第ナリ

英ニ転電シ英ヲシテ仏、伊、独、露ニ転電セシム

733 昭和4年5月9日 田中外務大臣より
在中国堀臨時代理公使宛(電報)

孫文國葬には在中国公使以外專使として特派
する意向なきことについて

本省 5月9日後7時20分發

第一二八号

貴電第四三三三号ニ関シ目下ノ处在支公使以外ノ專使ヲ特派
スル意嚮ナシ、尚使節ノ代表資格ニツイテハ一兩日中追電
ス

734 昭和4年5月16日 田中外務大臣より
在中国堀臨時代理公使宛(電報)

芳澤公使の孫文國葬参列資格は英國と同様の
方法に倣いたること等について

本省 5月16日後7時10分發

第一四六号

往電第一二八号末段ニ関シ

芳澤公使ノ代表資格ハ特派使節又ハ大使ノ名称ヲ用ヒズ英
國ト全ク同様ノ方法ニ倣ヒ天皇陛下ノ特旨ニ依リ今回ノ祭
典ニ参列セシメラルルコトニ相成ルベキニ付右趣旨ニテ適
宜外交団ニ通告セラレ度シ尚英國ニ於テ靈前ニ捧呈スル張
子又ハ花環ハ英國皇帝ノ名義ヲ用フルモノナリヤ又ハ英國
政府ノ名ニ依ルモノナリヤ右記入スベキ正確ナル名義ヲ御
問合セノ上至急回電アリ度ク若シ貴地ニ於テ本件取調困難
ナル場合ニハ在南京領事ヲシテ取調ノ上当方ヘ回電セシメ
ラレ度シ

本電上海、南京ヘ転電セリ

735 昭和4年5月18日 田中外務大臣より
在南京岡本領事宛(電報)

芳澤公使の信任状を孫文移柩祭以前に提出し
たいと思考するので日取等に関し中国側に打

合せ方訓令

(編註)
第八七号(極秘)

芳澤公使ノ御信任状ハ今上陛下御踐祚ト共ニ当然更新スヘ
キモノナリシモ支那政情變転ノ為見合セ居リタル処其ノ後

国民政府樹立シ最近日支間ノ諸懸案モ逐次解決シタルノミナラズ日本政府トシテハ既ニ事実上同政府ヲ承認シ居レル次第ナルモ芳澤公使孫文祭典ニ参列前新帝陛下ノ御信任状ヲ提出シ我方ト国民政府トノ正規ノ關係ヲ一層明確ニシ置クコト必要ト思考スルニ付同公使南京着ノ日即チ二十九日蔣主席ニ面会ノ上信任状ヲ提出セシムルコト、シ度ク然シテ右ハ三十日午前九時各國專使ノ蔣主席会見トハ區別スルヲ要スルノミナラズ右目的ノ為ニハ二十九日ヲ措イテハ他ニ日取無キ次第ニ付貴官ハ大至急其ノ含ミニテ外交部当局ト御交渉二十九日御信任状提出出来ル様御打合せノ上結果御回電アリ度シ

尚我方トシテハ御信任状提出ニ依リ国民政府ヲ正式ニ承認シタルモノナル旨後日外部ニ説明スル積リナルモ貴電第四七二号末段芳澤公使ニ対スル王部長応酬ノ次第モアリ此ノ際御信任状ノ提出ニ依リ正式ニ承認スルモノナルコトヲ支那側ニ述ブルハ彼我ノ間ニ不必要ノ論議ヲ起ス恐レアルニ付之ヲ避ケテ特ニ正規ノ關係ヲ一層明確ニスル趣旨トシテ御交渉アリ度シ為念將又支那側ニ於テハ右貴電末段ノ次第モアリ大使館昇格ヲ熱望スル余リ前記日取打合せヲ避ケム

第八八号 大至急

本省 5月18日後4時45分発

本大臣発北平宛往電第一四六号ニ関シ

当方ニ於テ今回特派使節又ハ大使ノ名称ヲ避ケタルハ英國公使ハ Representative of the King トシテ祭典ニ参列スル方法ヲトル旨英國側ヨリ通報ニ接シ我方ニ於テモ同様ノ方法ニ依ラレ度旨懇懇シ来リタルニ鑑ミ少クトモ英國代表ニ劣ラサル待遇ヲ求ムル必要上特ニ宮内当局トモ懇談種々詮議ノ結果破格ニモ天皇陛下ノ特旨ニヨリ芳澤公使ヲシテ右祭典参列セシメラル、様仰出サル、コト、相成リタル次第ナルカ右我方ノ代表資格ヲ正式ニ先方ニ申入ル、前ニ豫メ左ノ点承知致度ニ付南京当局ニ就キ御確メノ上折返シ回電アリ度シ。

一、英國代表ハ如何ナル名称ヲ用イ又右ハ如何ナル形式ニテ申入レアリ哉、

二、前記資格ノ我方代表者ハ少クトモ英國代表ニ劣ラサル待遇ヲ受クルモノト期待シ居ル次第ナルカ右ニ誤リ無キ哉又英國代表ト他ノ特派使節トノ待遇上ノ振合如何。

トスルヤモ計リ難キ処万一去ル場合ニハ支那側極秘ノ含ミトシテ左ノ趣旨可然御説明相成リ無用ノ焦慮ヲ為サズ我方ノ申入レヲ快諾スル様適宜御取計アリタシ

在支公使館昇格方ニ関シテハ我方トシテハ日支国交ヲ重要視スル見地ヨリ主義上既ニ決定シ居リ所要經費モ年々予算ニ計上シ居ル位ニテ成ルヘク速カニ之ヲ実行シ度キ所存ナルモ本件ニ付テハ出来得ル限り列国ヲモ懇懇シテ之ヲ実行セシメ度キニ付近日關係列国ニ対シ右勧誘スル積リナルモ何レニシテモ孫文祭典前ニハ時日已ニ切迫シ到底実行不能ナルニ付此ノ際ハ先ツ公使ノ御信任状提出ニ止メ近ク大使館昇格ノ段取りニ進ミ度キ意向ナリ

北京、上海、奉天ニ転電アリ度シ

編注 原文は起案文につき発電日時不明。

736 昭和4年5月18日

田中外務大臣より
在南京岡本領事宛(電報)

芳澤公使の孫文國葬派遣資格を正式申入れの
前に国民政府に確めおく事項について

737 昭和4年5月20日

田中外務大臣より
田中内閣総理大臣宛

芳澤公使の信任状立案上奏について

昭和四年五月二十日付

人普通第二二二号

田中外務大臣

田中内閣総理大臣宛

支那共和国駐劄特命全權公使芳澤謙吉御信任状別紙ノ通立

案致 上奏候間可然御取計相成度此段申進候也

(別紙一)

上奏案

特命全權公使芳澤謙吉大正十二年五月三十一日支那共和国駐劄被仰付同人ニ対スル御信任状ハ同年十月曹錕大統領ニ捧呈致シタル次第ニ有之候其ノ後大正十五年十二月二十五日先帝崩御今上陛下踐祚被為其儘ニ付同公使ニ対スル御信任状更新ノ必要有之候処當時支那国中央政府カ特異ノ状況ニ有之タル為右御信任状ヲ更新セス今日ニ及ヒタル次第ニ

有之候然ル処其ノ後国民政府樹立セラレ最近其ノ基礎漸次鞏固ヲ加ヘ来リタルニ付右政府ニ対シ新ニ同公使御信任状ヲ捧呈致度ニ付テハ別紙ノ通立案ノ上奉供 欽聞候間御本書御下付相成様仕度此段謹テ奏ス

昭和四年五月二十日

外務大臣男爵 田中 義一

(別紙二)

芳澤特命全權公使御信任状案

天佑ヲ保有シ万世一系ノ帝祚ヲ踐メル大日本國皇帝

(御名) 敬テ支那共和國國民政府主席閣下ニ白ス

朕幸ニ從來兩國間ニ存スル所ノ友誼交情ノ益鞏固親密ナラムコトヲ欲シ朕カ篤ク信任スル所ノ正四位勲一等(旭)芳澤謙吉ヲ特命全權公使トシテ貴政府ノ下ニ駐劄セシム謙吉人ト為リ忠誠篤実事ヲ執テ勉勵シ物ニ当テ敏達ナルコト朕カ固ヨリ熟知スル所ニシテ貴主席ノ寵眷ヲ蒙ムルヘキハ疑ヲ容レサルナリ謙吉カ朕ノ名ヲ以テ貴主席ニ陳述スル所ノモノハ之ヲ信用聽納セラレムコトヲ深ク冀望ス茲ニ朕カ恭敬親愛ノ衷情ヲ表シ併セテ貴主席ノ康寧ヲ祈ル

(付箋)

ノノ如キモ当方ニテハ從前通「支那共和國」ト呼称シ来リタル次第ナル処今回國民政府ニ提出スヘキ信任状記載ノ国名ハ孰レニ依ルヘキヤ

但シ案文ニハ先例ニ倣ヒ「支那共和國國民政府」ト記載シタリ

(欄外記入二)

三、支那国元首ノ呼称ニ関スル件
信任状ニ記載スヘキ支那国元首ノ呼称ハ別添中華民國國民政府組織法第六條ニ依レバ「國民政府主席委員(何某)閣下」トスヘキモノト思考セラルルニ付右ノ如ク記載シタリ

但シ先例中ニハ共和国ノ場合ニハ単ニ「何國大統領閣下」トシ氏名ノ記入ヲ省略スル場合アリ蓋シ右ハ大統領正式就任前ナル場合又ハ我國ト遠隔ノ地ニ在リ而モ政変多キ国ニ在リテハ信任状捧呈間際ニ大統領更迭スルコト往々有之場合等ノ事案ニ鑑ミ執リタル便法ナリ

四、主席委員ノ略称

信任状文中從來ノ例ニ依レバ「貴大統領ノ何々」又ハ「貴大統領ニ陳述スル所ノモノハ」等トアル箇所ヲ國民政府ニ対スル場合ニハ「貴主席委員ニ陳述スル所ノモノハ

神武天皇即位紀元二千五百八十九年昭和四年五月 日(東京宮城)ニ於テ親ヲ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名 国璽

外務大臣男爵 田中 義一

(別紙三)

芳澤公使信任状起草案上ノ参考及研究事項

一、信任状発給ノ形式

大正十二年十月曹錕大總統ニ捧呈シタル信任状ハ同国政変ニ依リ新ニ成立シタル現國民政府ニ対シテハ其ノ効力消滅シタル次第ニ付今回ノ信任状ハ更新ノ形式ニ抛ラズ公使館新設ノ場合ノ式ニ倣ヘリ(大正二年支那共和國承認ノ場合ニ於ケル山座公使ニ対スル信任状及「ボーランド」共和國承認ノ場合ニ於ケル川上公使ニ対スル信任状等ヲ先例トセリ)

二、支那国名呼称ノ件

大正二年中華民國承認後大正四、五年頃迄ノ条約文等ニハ兩國共「支那共和國」ト称シ居レルガ大正七年以後ノ条約文等ニ抛レバ先方ニ於テハ中華民國ト改称シタルモ

(欄外記入三)

「又ハ「貴主席委員ノ康寧ヲ祈ル」等トナルヘキニ付案文ニハ斯ク記載シタルガ如何カニモ言語ノ感シ惡シキ様思考セラルルニ付右ハ「貴委員」或ハ単ニ「閣下」トスヘキモノナリヤ

五、其ノ他用語二件

大正二年山座公使ニ対スル信任状ニハ前文中ノ「威德隆盛ナル良友」ノ文句ヲ削除シ且ツ「貴政府ノ下ニ駐劄セシム」トスヘキトコロヲ「貴国ニ駐劄セシム」ト特ニ変更シアルモ今回ノ案ニハ一般ノ例ニ倣ヒ記載シタリ

(欄外記入四)

(欄外記入一)

(条約局意見概要)

日本文ニテハ「支那共和國」ト称スヘキモノニテ右ノ次第ハ大正二年當時朝鮮總督府ヨリノ照会ニ対シ回答シアリ依テ從來通「支那共和國」ト使用スルコト亜細亞局トモ協議スミ

(欄外記入二)

「國民政府主席」トシ氏名ヲ略ス
右ノ通決定セラレタリ

(欄外記入三)

前項ニ於テ「國民政府主席」トシ「委員」ヲ省クコトナリタル結果

「貴主席」トスルコト

(欄外記入四)

前例通「威徳隆盛ナル良友」ヲ削除スルコト

但シ「貴政府ノ下ニ」ハ原案ノ通トス

(付箋)

支那国名称変更ノ高裁案ヲ撤回シ御信任状案ニモ從來通り支那共和国ト記スルコトニ亜細亜局ト人事課ニ打合済ノ由亜細亜一課ヨリ電話アリタリ 七田(印)

738

昭和4年5月21日 在上海重光総領事より
田中外務大臣宛(電報)

孫文移柩祭参列前の信任状提出に關し王外交
部長と会談について

上海 発
本省 5月21日後着

第七〇四号(至急)

南京宛電第八七号ニ関シ

モ新任使節ノ信任状ヲ受クルハ勿論ナルカ

執レニスルモ国喪中ニ之ヲ行フハ不可能ナリト答ヘタリ
依テ本官ハ今回ノ御信任状ハ新帝陛下ヨリモノニテ之ヲ捧呈スルハ当然ノコトナリト述ヘタルニ王ハ新帝ノ信任状ヲ提出スルハ尤ノ儀ナルカ日本ハ他国ニアル大公使ニ対シテモ御信任状ヲ更改シタル次第ナリヤ参考ノ為承知シ度尤モ何レニスルモ六月二日以後ナラテハ不可能ナリトテ本問題ニ付テハ既ニ他国トノ關係ニ於テ充分研究済ノ模様ニ見受ケラレタリ

二、右会談ノ際王ハ公使トシテ信任状ヲ受クル必要ナキ次第ハ芳澤公使出発前直接御話シ置キタル処ニテ出来得ルナラハ大使ノ信任状提出ノ運トナラムコトヲ希望シ居ル次第ナリト述ヘタルニ依リ本官ハ今回ノ申出ハ孫文祭列席前ニ新天皇陛下ノ御信任状ヲ提出セムトスル意味ニテ右ハ貴方ノ希望ニモ一致スル所ト思考シタルカ他方日本政府ハ貴国政府殊ニ貴部長ヨリ芳澤公使ニ申出テラレタル大使交換ノ点ニ付テハ充分好意的考慮ヲ加ヘ進ンテ貴方ノ希望ニ副フ様列国ヲ勸説スル決意ヲ有スルニ至リシ次第ナリ尤モ右ハ極メテ内密ノ御話ニテ右ヲ他ノ機会ニ

一、二十日夕王部長ト会见シタルニ依リ本官ハ芳澤公使今回赴寧ノ際ハ新天皇陛下ノ御信任状ヲ提出スル意嚮ニテ此ノ点ニ付テハ岡本領事ヨリ外交部ニ対シテモ申入レ置キタルカ要スルハ右ハ孫文祭典ノ儀式参列ニ際シ一層鄭重ニセントスル意味モ含マレ居ルト思考セラレ旁貴方ノ希望ニ副フ所以ナルニ付右御信任状ノ提出ハ孫文祭典ノ以前即チ芳澤公使南京着ト豫定シアル二十九日トシ度キ考ナリ然ルニ外交部ニテハ二十六日以後ハ国喪トナリ居ルニ依リ都合悪シキ旨申シ居ル趣ナルカ信任状提出ノ如キハ國際的ノ儀礼ナルニ付何トカ都合シテハ如何ト述ヘタルニ王ハ御好意ノ程ハ感謝スル次第ナルカ二十六日ヨリ六月一日迄ハ国喪ニテ一切ノ「フアンクシヨン」ヲ停止スルコトナリ居リ殊ニ国書捧呈ノ如キハ「ハツピ」、セレモニー」ナルニ依リ之ヲ行フハ不可能ナリ尚又右ハ公使トシテノ御信任状捧呈ノコトト諒解スル処斯テハ列国ニ対シテモ影響スル処鮮カラス即チ各国ノ公使ハ既ニ北平ニ於テ信任状ヲ提出シタル以上南京ニ於テハ当然之ヲ繼承シ居リ改メテ新ニ信任状ヲ提出スルノ要無シト認メラレ其ノ趣旨ニテ各国トノ間ニモ既ニ諒解アリ尤

引用セラレサル様ニ願ヒ度ト述ヘタルニ王ハ頗ル満足ノ態ニテ日本政府ノ好意ヲ感謝スル旨答ヘタリ

支、南京ニ転電セリ

739

昭和4年5月22日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

孫文移柩祭参列の各国代表者に対する中国側
待遇振りについて

南京 5月22日後発
本省 5月23日前着

第五六二号(至急)

往電第五五六号ニ関シ

支那側ニ於テハ各公使共所謂專使トシテ同等ニ待遇スル由ニテ胡交際科長ハ「日本公使ハ勿論英國公使以下ノ待遇ヲナスノ筈ナシ只「アルファベチカル」順序ニテ英國公使ノ下位ニ就カルルコトトナルヘシ」ト謂ヘリ
北平、上海ニ転電セリ

740 昭和4年5月23日 田中外務大臣より
在南京岡本領事宛(電報)

芳澤公使が陛下の特旨により孫文国葬に参列
する経緯通報

本省 5月23日午前11時15分発

第九〇号(至急)

貴電第五四九号ニ関シ我方ニ於テ往電第八八号ノ通芳澤公使ヲシテ陛下ノ特旨ニヨリ今回ノ祭典ニ参列セシムル様仰出サル、コトニ取計ヒタル経緯ハ元来本省トシテハ単ニ特派使節ナル名目ニテハ国王ノ代表ト云フ名目ヲ有スル英国代表トノ間ニ差別ヲ附セラル、ヲ虞レ英国ト全ク同様ノ立場ヲ保ツ為メ陛下ノ代表ナル名称ヲ希望シタル次第ナルモ宮中ノ用語トシテ御名代ハ皇族ガ陛下ヲ代表セラル、場合ノミニ用イラル、趣ニテ此場合到底此ノ名目ニ依ルコトヲ得ズサレバトテ勅使ナル名称ニテハ英国ノ所謂 Representative of the King ノ觀念ト多少相違スル様ニモ懸念セラレタルヲ以テ右ノ事情ヲ宮内当局ニ打明ケ懇談ノ結果特ニ名目ヲ避ケ前記往電第八八号ノ方法ニ依ルコトノ諒解ヲ得、之ニ依テ英国代表ト同様ノ意味合ヲ含マシムルコト、

致シタル次第ナルヲ以テ愈々先方ニ正式申入ル、場合(追テ電報ス)ニ於テモ当方電報ノ通りノ用語ニ依リ何等御名代等ノ名称ヲ用イザル様特ニ御注意アリ度シ尤先方ニ於テ我代表ニ何等名称ヲ附スルハ已ムヲ得ザルベシ

上海、北平ニ転電セリ。

741 昭和4年5月23日 田中外務大臣より
在上海重光総領事宛(電報)

今回の芳澤公使信任状は更新の形式でなく新政府たる国民政府に捧呈が目的であることに
ついて

本省 5月23日後1時10分発

第三四五号

貴電第七〇四号ノニニ関シ

我国ニ於テハ新帝踐祚ノ場合ニハ在外大公使ノ信任状ヲ更新スルコトナリ居リ今上陛下御踐祚ノ当時特別ノ事情ナキモノニ対シテハ全部更新セリ(大正天皇大喪紀要第六章第四節参照)

但シ今回ノ芳澤公使信任状ハ右更新ノ形式ニ依ルニアラズ

新政府タル国民政府ニ捧呈ノ目的ニテ公使館新設ノ場合ノ形式ニ依リ立案シ居レリ後段貴官御含迄

北平南京へ転電アリ度シ

742 昭和4年5月30日 田中外務大臣より
木下関東長官宛(電報)

関東庁各官衙においては孫文国葬半旗掲揚の
必要なきについて

本省 5月30日後7時15分発

第三九号

貴電外第五〇号ニ関シ

貴庁各官衙ニ於テハ半旗掲揚ノ必要ナシ尚満鉄モ關東州内ニ於テハ同様ナリト御承知ヲ乞フ

743 昭和4年5月30日 在上海重光総領事より
田中外務大臣宛(電報)

在上海大韓民国臨時政府代表等の孫文移柩祭
参列について

第七三六号

孫文靈柩奉安祭ニ参列ノ為当地大韓民国臨時政府代表者安正浩^(昌カ)ハ金弘鉞外一名同伴二十九日鐵路赴寧セリ
尚東方被圧迫民族代表者トシテ目下南京在住ノ鮮人白鴻雲カ参列スルナラムトノ聞込アリ

支、南京へ転電セリ

744 昭和4年5月31日 在上海重光総領事より
田中外務大臣宛(電報)

台湾民衆党代表と称する者の孫文移柩祭参列
について

上海 発

本省 5月31日後着

第七三八号

本官発南京宛電報

第六八七号

本官発大臣宛電報第七三六号ニ関シ

台湾人謝春木及王鐘麟ハ台湾民衆党代表トシテ参列ノ為三
十日貴地ニ向ヘリ何レモ行動視察ノ上御回報ヲ請フ
大臣、北平へ転電セリ

745 昭和4年5月31日

在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

孫文移柩祭における外国使節の儀礼状況に關
し芳澤公使報告

南京 5月31日後発
本省 6月1日前着

第五九七号

芳澤公使ヨリ

孫總理奉安式ニ関スル対外的儀礼ハ五月三十日外交部長ノ
各国特使接見式ニ始マリ同日本使ハ各随員ヲ帶同シ午前九
時外交部長官舎ニ王正廷ヲ訪問シ各国特使モ正午迄ニ順次
訪問ヲ了セリ

次テ翌三十一日国民政府主席謁見式及中央党部ノ公式祭典
舉行セラレタルカ其ノ概要左ノ通

一、謁見式ハ午前八時二十分国民政府大礼堂ニ於テ行ハレ

ヲ順次靈前ニ供ヘ同時ニ各国別ニ随員ト共ニ靈柩ニ敬礼
シ右ニテ祭典ヲ終了セリ

一、以上各儀式ノ参列及出入ニハ凡テ政府ヨリ派遣ノ接待
員(各国一名日本側ハ特ニ二名)随行シ夫々接待ヲナセ
リ

一、各国代表者ノ参列ハ總數十七ヶ国及羅馬法王庁代表ニ
シテ各儀式ノ参列及着席其ノ他ノ席次ニ付相当議論アリ
タルモ結局各公使ハ其ノ着任順ニ依ルコトトナリ其ノ結
果和蘭、日本、白耳義、仏、米、英等ノ順位ニテ参加セ
リ

尚今回ノ各種儀礼ニ対スル支那側ノ準備ハ甚タシク疎漏杜
撰ニシテ外賓側ト豫メ協議スヘキ事項ニシテ協議洩等ノ為
豫定ヲ變更シタルモノ少ナカラス日程其ノ他「プログラ
ム」等刻々變更ノ為外賓ハ何レモ少ナカラス当惑シ居レリ
北京、上海、奉天ニ転電セリ

746 昭和4年6月(1)日

在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

台湾民衆党代表の孫文移柩祭参列申込み拒絶

各国特使及随員之ニ参列シ先ツ首席蔣介石ヨリ孫總理奉
安式ニ際シ各国元首カ特ニ專使ヲ派シタル事ヲ謝シ且各
国代表者ヲ歡迎シ其ノ健康ヲ祈ル旨次テ和蘭公使各國特
使ヲ代表シテ孫總理奉安式ニ際シ各元首ハ特ニ專使ヲ派
シタル次第ヲ述ヘ次テ蔣主席ノ健康ヲ祈ル旨挨拶ヲ述ヘ
終リテ王外交部長ノ紹介ニ依リ各国特使及随員順次主席
ト握手シ右ニテ式ヲ終リ九時十分同所ヲ發シ直ニ中央党
部ニ赴ケリ

一、党部ニ於ケル祭典ハ九時ヨリ開始セラレタルカ祭場ニ
ハ正面ニ孫文ノ靈柩ヲ安置シ其ノ上ニ孫文ノ遺像ヲ掲ケ
祭壇ノ前方及側面ニハ前日当方ヨリ送付ノ帝國政府及總
理大臣寄贈ノ花環及本使寄贈ノ輓聯ヲ始メ數ヶ国ヨリ寄
贈ノ花環ヲ供ヘアリ各国特使及随員着席後奏樂ニ次テ首
席和蘭公使各國特使ノ代表トシテ孫文ノ大業ト德望ヲ賞
シタル祭文ヲ朗読シ次テ各特使ハ支那側用意ノ小型花環

について

第六〇一号

南京 発
本省 6月1日後着

本官発上海宛電報

第五六九号

貴電第六八七号ニ関シ

謝春木及王鐘麟ハ陳某ト共ニ三十日午後当地着下關東南飯
店ニ福建人ト称シ投宿昨三十一日中央党部ヲ訪ヒ台湾民衆
党代表ノ名ヲ以テ花環一對ヲ供ヘ奉安祭参列方申込ミタル
モ参列ハ体良ク拒絶セラレタルヲ以テ一日早朝蘇州ニ向ケ
出發セリ

尚同人等ハ当地滞在中籍民医師蘇樵山ヲ訪レタルモ何等不
穩ノ言動ナシ

大臣、北平、蘇州へ転電セリ

747 昭和4年6月1日

田中外務大臣より
在米国出淵大使宛(電報)

日本側の在中国公使館昇格問題に対する意向

説明振りについて

別電

六月一日発田中外務大臣より在米国出淵大使宛第一九九号

右説明内容

本省 6月1日後7時発

第一九八号（極秘）

在支公使館昇格問題従来ノ経緯ハ御承知ノ通ナルカ最近在
本邦独、仏代表者ヨリ外務次官ニ対シ本件ニ関スル我方ノ
意向問合セノ次第アリタルニ付同次官ヲシテ別電第一九九
号ノ趣旨ヲ答ヘシムルト同時ニ英、米、伊代表者ニモ同様
ノ趣旨ヲ告ケシメ置ケリ

別電ト共ニ英ニ転電シ仏独伊露ニ転電セシメラレタシ

（別電）

本省 6月1日後7時発

第一九九号（極秘）

在支公使館昇格問題ニ関シテハ日支関係ヲ重要視スル見地
ヨリ我方トシテハ主義上既ニ昇格方決定シ居リ所要経費モ
年々之ヲ豫算ニ計上シ居ルモ其ノ後支那政情ノ変転ニ加フ

引続キ六月一日移靈奉安大典行ハレタルカ概況左ノ通

一、午前三時半各国特使ハ各随員ヲ従ヘ夫々国民政府派遣
ノ接待官ノ案内ニテ中央党部ニ参集シ直ニ党部玄関前ノ
指定席ニ着ク定刻四時、前日公祭行ハレタル同党部内ノ
祭場ニ於テ移靈ノ儀開始セラレ奏楽敬礼黙禱誄文朗読奏
楽等ノ次第ヲ経テ靈柩ハ直ニ靈柩車（自動車）ニ移サレ
テ五時行列ノ進行開始セラレ中山陵ニ向ヘリ

一、行列ハ全延長ヲ十行列ニ分チ学生軍隊各界代表地方政
府及ヒ地方党部代表中央政府各機関職員（蔣主席以下五
院院長各部長其ノ他）中央党部職員、外賓孫文ノ遺族、
故旧等ノ各団体ヲ配列セルカ本使外各国公使及随員ハ第
七行列ニ参列シ靈柩ノ右側ニ列セリ

一、斯テ行列ハ新築ノ中小路ヲ行進シ午前九時半陵園ニ到
着シタルカ各国特使及ヒ随員ハ中央党部ヨリ約一哩ノ地
点ニ於テ一応行列ヲ離レ各宿舍ニ帰り休憩ノ上定刻陵園
ニ参集シ行列ヲ出迎ヘ直ニ陵園内ノ祭堂ニ入り着席セリ

一、次テ祭堂ニ於ケル奉安式ニ移リ奏楽敬礼花環供献誄文
朗読等ノ順序ヲ終テ靈柩ヲ祭堂ヨリ祭堂ト接続セル後方
ノ陵墓ニ移シ墓内ニ安置シ（此ノ際和蘭公使各国特使ノ

ルニ日支関係円滑ヲ缺クモノアリタルカ為暫ク本件実行ヲ
見合セ居リタル処芳澤公使過般帰朝ノ砌其ノ南京出發ニ当
リ王外交部長ヨリ公使館昇格ノ希望ヲ申出アリタリト帝
国政府ヘ意見具申ノ次第アリ最近日支間ノ諸懸案モ相踵テ
解決シタル一方国民政府ノ基礎漸次安定ノ途上ニ在リト認
メラルルヲ以テ帝国民政府ニ於テモ再応本件ヲ考慮スヘキ時
期ニ達シタルヤニ思考シ適當ノ機会ニ於テ大臣ヨリ在京関
係国代表者ヘ協議ニ及ブヘキ様詮議中ナルガ昨今支那内政
ノ状況ハ恰モ右協議ニ好都合ナラサルモノアルニ至リ遂ニ
未タ右ノ運ヒニ至ラズ云々

748 昭和4年6月(2)日

在南京岡本領事より
田中外務大臣宛（電報）

孫文移柩祭舉行当日の概況に関する芳澤公使報告

南京

本省 6月2日後着

第六〇五号

芳澤公使ヨリ

往電第五九七号ニ関シ

代表トシテ又故旧席ニ着席ノ犬養、頭山等日本側民間参
列者ノ代表トシテ犬養遺族及政府要人等ト共ニ墓門内ニ
進ミ安置ノ儀ニ参加ス終リテ本使ヲ先頭トシ各国特使
及随員並ニ堂内参列者順次墓内安置ノ靈柩ノ周囲ヲ一巡
シ各員原位置ニ復シタル後黙禱敬礼奏楽等ノ順序ヲ経テ
式ヲ終レリ

以上ニテ今回ノ奉安大典中国際の関係ヲ有スル儀式全部ヲ
終了シタル次第ナルカ前日来ノ各種儀式ヲ通観スルニ儀礼
概ネ簡素ニシテ何等ノ虚飾ナク従来ノ如キ宗教的儀式ハ一
切之ヲ加ヘス特ニ各種ノ迷信ニ類スル作法等ヲ努メテ排斥
シタル模様ニテ支那古来ノ国家的祭典トシテ新例ヲ開キタ
ルモノト認メラルル処挙式全般ニ亘リ準備不十分ニシテ且
秩序ヲ缺キ莊重神嚴ノ気分ヲ認ムルヲ得ス殊ニ前記奉安当
日ハ共產党一派ノ妨害運動ヲ虞レ之カ警戒ノ為一般人ノ通
行参拝ヲ極度ニ制限シタル結果中央党部及陵園トモ其ノ祭
典ニハ極メテ少数ノ指示民間代表者参加シタルノミニシテ
甚シク国家的典礼トシテノ色彩ヲ缺クヤニ感セラレタルモ
斯ノ如キ大規模ニ行ハレタル支那ノ祭典トシテハ比較的手
際良ク行ハレタル様認メラレ大礼ニ於テ各国特使ノ間ニモ

評判良キ方ナリ

尚附帶的「プログラム」トシテ外交団側ニ対シ二日南京特別市長ノ午餐会王外交部長夫妻ノ園遊会アリ三日主席蔣介石ノ公式午餐会催サル豫定ニテ右終了後各国特使ハ随意当地ヲ引揚ケ帰任スル豫定ナリ

北平、上海へ転電セリ

749 昭和4年6月3日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

国民政府への信任状捧呈に関する芳澤公使報告

別電一 六月三日発在南京岡本領事より田中外務大臣宛第六一六号

宛第六一六号

右に関する芳澤公使口上書

二 六月三日発在南京岡本領事より田中外務大臣宛第六一七号

宛第六一七号

右に関する蔣介石主席の答辭訳文

南京 6月3日後発

本省 6月3日後着

第六一五号

テ陛下ノ御安康ヲ祝シ奉ル旨申出アリ本使ヨリ更ニ主席ノ健康ヲ祝シ之ニテ暇ヲ告ケ九時十分退場シ右ニテ滞リナク式ヲ終リ別室ニテ酒菓ノ饗応ヲ受ケ更ニ往路ト同様参軍及接待官ノ案内ニテ帰還セリ

尚当日捧呈ノ国書ハ外交部ト打合セ其ノ写ヲ同部ニ送付シ同部ニテ当方館員立会ノ上之ヲ漢訳シ豫メ主席ニ被閱シアリタル次第ナルカ同時ニ本使ノ口上及主席ノ答辭ハ豫メ先方ト其ノ原稿ノ打合セヲ為シタルモノナル処其ノ間支那側ヨリ其ノ内容及字向等ニ関シ彼此註文出テ数日ノ折衝ヲ経テ漸ク別電ノ通取纏メタル次第ナリ当日ノ次第書等詳細委細公信ス

尚又伊国及独逸ノ国書捧呈ハ伊国同日午前十時、独逸十一時ニ夫々行ハレタリ

別電第六一六号及六一七号ト共ニ北京、上海ニ転電セリ

(別電一)

南京 6月3日後発

本省 6月3日後着

第六一六号

⁽¹⁾ 芳澤公使ヨリ

往電第六〇二号ニ関シ

六月三日豫定ノ通御信任状ヲ捧呈セリ

此ノ日本使ハ国民政府派遣ノ参軍及外交部接待官ノ出迎ヲ受ケ政府差廻シノ自動車ニテ公使館員横竹、重光、公森、天羽ノ諸官、建川、杉坂両公使館附武官及岡本領事ヲ帶同シ午前八時半当領事館ヲ発シ国民政府ニ赴キ定例局長以下接待官ノ出迎ヲ受ケ休憩室ニ入り少時休憩ノ後定刻午前九時随行諸官ヲ率ヒ式場ニ入ル

式場ニハ蔣主席軍礼服ヲ着用シ場ノ正面ニ起立シ王外交部長及侍從文武官並ニ典礼官等左右ニ侍立シ本使ヲ迎フ本使主席ノ前ニ至ルヤ王外交部長本使ノ官氏名ヲ朗称シ次テ本使ハ別電第六一六号ノ口上ヲ申述ヘ有野通訳官是ヲ漢訳シ終リテ本使ヨリ恭シク御信任状ヲ主席ニ捧呈ス主席之ヲ受ケタル後別電第六一七号ノ答辭ヲ述ヘ接待官沈觀鼎之ヲ和訳シ次テ本使ヨリ随員各官ヲ順次主席ニ紹介ス

⁽²⁾ 右終ルヤ主席ハ本使ニ対シ天皇陛下ノ御機嫌ヲ奉伺スル旨申出アリ本使ヨリ陛下ハ先般来八丈島ニ行幸アラセラル居ル旨並聖躬御安康ニ渡ラセラルル趣ヲ答ヘタルニ主席ハ謹

(口上書)

日本帝國ト中華民國トハ古ヨリ友好ナル交誼ヲ重ネ来リタルカ今回我^(四字分アキ) 天皇陛下ハ特ニ本使ヲ^(四字分アキ) 貴主席

ノ許ニ派シ親シク御信任状ヲ捧呈セシメ貴我兩國国交ノ愈敦厚ナルコトヲ表彰セシメラレ本使ハ今日此ノ光榮アル御信任状捧呈ノ式ニ臨ミ日支兩國カ兩國民族ノ使命ヲ自覺シ國際間ニ於ケル兩國ノ地位ヲ諒解シ兩國国民ノ繁榮増進ノ為ニ今後モ益々親善ヲ加ヘンコトヲ希望スルト同時ニ謹テ貴國ノ隆昌ト^(四字分アキ) 貴主席ノ御健康トヲ祝ス

(別電二)

南京 6月3日後発

本省 6月3日後着

第六一七号

(蔣主席ノ答辭訳文)

今回貴國^(四字分アキ)

天皇陛下特ニ貴公使ニ命シ国書ヲ捧呈セシメラレ貴我兩國交誼ノ益々敦厚ナルコトヲ表彰セシメラ

レタルハ本^(四字分アキ) 主席ノ深ク欣幸トスル所ナリ

国民政府ハ故^(四字分アキ) 總理ノ遺教ヲ受ケ國際間ノ睦誼ノ敦

厚ヲ期スルモノナル処特ニ從來友好關係ヲ有スル同洲ノ隣邦ニ対シテハ其ノ親善ノ基礎ノ益々鞏固ナラムコトヲ希フモノナリ

貴公使ハ支那ニ在職スルコト歳アリ必スヤ良ク益々両国民族ノ福利ヲ増進セラルルモノト信ス本国政府ハ右貴公使ノ職務上必要トセラルル便宜ニ対シテハ極力之カ共助ヲ為スヘシ茲ニ真摯ナル誠意ヲ以テ謹テ貴国 (四字分アキ) 天皇陛下ノ御安康ヲ祝シ尚貴公使ノ旅途ノ平安ヲ祈ル

750 昭和4年6月(4)日

在南京岡本領事より
田中外交大臣宛(電報)

孫文移柩祭の公式日程終了に関する芳澤公使報告

南京 発

本省 6月4日前着

第六二二号

芳澤公使ヨリ

往電第六〇五号ニ関シ

六月二日市長ノ特使随員ニ関スル午餐会ニ次テ外交部長ノ園遊会アリ三日蔣主席ノ公式午餐会アリ各国特使随員及支

イカ国民政府其ノモノノ消滅ヲ見ルカ如キコトハ万無カルヘク其ノ地歩ハ内外ニ対シ漸次鞏固ヲ加フルモノト見ルヲ至当ト考ヘル

支那ノ政情紊乱ノ為何カト迷惑ヲ蒙ルハ日英ノ如ク支那ニ深甚ノ利害關係ヲ有スル国テアツテ日本ハ現ニ排日排貨ノ矢面ニ立ツテ居リ英国モ嘗テ排英ニ苦マレタル経験ヲ有セラルル次第テアルカ之ハ支那ノ対外的態度ノ根底ニ潜ム排外熱ノ一ツノ現ハレニ過キヌ今後此ノ排外熱カ更ニ如何ナル形式ヲ以テ表ハレ来ルヤハ逆睹スヘカラサルモノカアル支那ニ利害關係深キ列国トシテハ豫メ之カ対策ニ付種々考究シ置ク必要カアルト思フカ差当リ列国ノ対支態度ノ歩調ヲ乱サヌ様ニ努ムルコトカ肝腎ト考ヘルト述ヘラレタルニ英大使ハ今日列国ニ於テハ支那トノ間ニ既ニ新タニ条約ヲ結ビ或ハ之ヲ結ハムトシテ好意ヲ示シツツアルニ拘ラス尚支那人ハ其ノ胸底ニ排外思想ヲ藏スト観ラルルヤヲ尋ネ大臣ハ然リ彼等ノ排外思想ハ根底深ク或ハ一時影ヲ潜メ居ルモ何等支那ト問題ヲ惹起ス国アラハ必ス其ノ国ニ向ツテ排斥ノ運動トナリテ現ハレ来ルヲ常トス殊ニ昨今政府ノ外ニ国民党ナル厄介ナルモノアリテ彼等ハ排外排貨ヲ一ノ武

那側要人百余名参列セルカ宴半ニシテ主席ヨリ各国特使ノ遠路参列ヲ謝シ将来相互平等ノ精神ニ基キ国交ノ親善ヲ計リタキ旨挨拶アリ首席和蘭公使参列者ヲ代表シテ謝辞ヲ述ヘタリ

右ニテ大体公式ノ「プログラム」ヲ終リ各国特使ハ三四日ノ内ニ何レモ退京ノ筈尤モ英国公使ノミハ種々ノ問題交渉ノ為出發ヲ延ス由ナリ尚犬養、頭山一行ハ三日夜蔣主席ノ招宴ニ臨ミ四日退京ノ筈ナリ
支、上海へ転電セリ

751 昭和4年6月7日

田中外交大臣
テイリイ英国大使 会談

中国諸問題に関し意見交換について

大臣会見録 九十八

六月七日午後三時半田中大臣ハ英国大使「サー、ジョン、テイリイ」ノ来省ヲ求メラレ

本日ハ支那ノ問題ニ付少シク御話シ致度キコトアリトテ支那ノ政情ハ未タ安定ヲ告クルニ至ラス悲觀的材料鮮カラス現政府当路ノ人物ニモ今後種々ノ変化又ハ更迭ヲ免レマ

器ト心得無暗ニ此ノ武器ヲ振り廻ハス癖アリテ困ツタモノナリ唯今ハ日本ノミニ対シテ之ヲ向ケ居ルモ何時又英国等ヲ目当テトスルヤ決シテ油断ハナラスト信スト答ヘラレ更ニ語ヲ次キテ

只支那ノ現状ハ種々同情ニ値スヘキ点カアルカラ此等ノ点ニ付テハ列国トシテハ出来得ル限り寛大ノ態度ニ出ツルノ要アルハ勿論テアツテ又斯ル態度ニ出ツルコトカ自然支那側ノ不羈ノ行動ヲ緩和スル所以ト考ヘル仍テ日本政府ハ国民政府ノ基礎カ最近一応定マルノヲ見ルヤ思ヒ切ツテ種々ノ懸案ヲ解決シ目下支那側ノ希望ニ応シ全般的通商条約改訂ノ交渉ニ入ル準備中テアル在支公使ヨリノ報告ニ依レハ貴国ニ於テモ近ク支那トノ間ニ通商条約ノ改訂商議ヲ開始サルル由テアルカ支那ニ対スル列国ノ通商上ノ地位カ互ニ如何ニ密接ナル關係ニ在ツテ一方ノ態度カ直ニ他方ニ影響スルコトハ今更本大臣ノ説明ヲ要シナイ所テアル殊ニ日英兩國ノ如ク支那ニ最利害關係ノ深キ国ノ間ニ於テ其ノ然ルヲ覚ユルノテアル從テ今次ノ通商条約改訂ニ当リテハ右交渉前ハ固ヨリ交渉中ニ於テモ種々ノ問題例ハ法権、税率、内水航行問題等ニ付出来得ル限り豫メ兩國ノ間ニ腹藏ナキ

意見交換ヲ遂ケ度キ切ナル希望ヲ有ス此ノ点ニ付テ「ランブソン」公使トノ間ニ現ニ密接ナル聯絡カ保タレテ居ルノ大本大臣ノ極メテ欣幸トスル所テアツテ斯ル協調的態度カ此ノ上共密接ニ保持サレムコトヲ切望スル尚治外法権問題ニ関シ最近支那側ノ申込ニ対スル貴国回答案ニ付当方ノ意見ヲ徴セラレタ故本日松平大使ニ電訓シテ大体後述ノ通即チ本件ニ関シ今後モ貴国ト御相談致度趣旨ヲ貴国政府ニ申述ヘシムルト共ニ在支芳澤公使ニモ其ノ趣旨「ランブソン」公使ニ通報スル様命シテ置イタカラ左様御承知置ヲ請フ

最後ニ在支公使館昇格問題ニ付当方ノ意嚮ハ過日次官ヨリ御披露致シテ置イタ通テアツテ不日適當ノ機会ニ御協議ニ及ヒ度ヒ考ヘテアルカラ御含置ヲ願ヒタイト述ヘラレタルニ

英大使ハ在支公使館昇格問題ノ如キハ事聊カ対支問題ノ詳細ニ亘ル点ナリト思考スル処今次ノ英国労働党内閣モ支那ニ同情ヲ有スル点ニ於テハ保守党内閣ノ時ト同様ナリトハ信スルモ右ノ如キ詳細ノ問題ニ付テハ其ノ経緯ヲ知ル迄ニ多少ノ時日ヲ要スルコトト認ムト挿話シ

キ必要ナル調整ヲ加ヘ事情ノ許ス限り支那側ノ要望ニ応スル方針ノ下ニ何等カ撤廃ノ具体的方法無キヤヲ講究中ニシテ又撤廃方交渉ノ節ハ支那側ニ対シ法権撤廃ノ「コロラリ」タル内地開放ヲ要求スルコト極メテ肝要ナリト思惟シ居ルモノナリ就テハ貴国政府ニ於テモ右帝国政府ノ意嚮ヲ御諒承ノ上更ニ何分ノ御回示ヲ得ハ帝国政府ノ頗ル欣幸トスル所ナリ」ト述ヘラレタル上

要ハ支那ニ対シ治外法権撤廃ノ望無キモノトノ感触ヲ与ヘテ之ヲ失望セサシムルニ在リ失望スレハ彼等ハ如何ナル自暴自棄ノ行動ニ出ツルヤ惻^(測)知ルヘカラサレハナリト附言セラレタルニ

英大使ハ唯今伺ヒタル所ニテハ英国側回答ニ於テハ支那ノ法制、法廷ノ不完全ナルヲ指摘スルニ重キヲ措カムトシ日本政府ニ於テハ法制ノ不備等ヲ強ク追究スル前ニ支那ヲシテ内地開放ヲ約セシメムトセラルル点ニ於テ異ナルノミニテ其ノ他ノ点ニ付テハ大ナル相違ナキカ如シ勿論自分ハ本国新政府ニ於テ何人カ外務大臣トナルヤスラ承知セサル位ナルヲ以テ何等政府ノ意ヲ申上クル能ハサルモ仮令何人カ外務大臣タルトモ唯今伺ヒタル日本政府ノ意向ニ反対アル

大臣ハ日本政府モ今急イテ貴大使ニ本問題ヲ相談セムトスルニアラス支那ノ事態ヲ見極メタル上後日御話シセムトスルモノナルヲ以テ英国新内閣モ十分研究ノ餘裕ハアルヘシト答ヘラレ

続イテ右ニ述ヘタル松平大使宛電訓ノ要領ヲ御話シスヘシトテ

「在支代理公使ヨリノ報告ニ依レハ各国相談会ノ結果別々ニ回答ヲ発スルコトナリ貴国回答案ニ付曩ニ御内示アリタル処支那ノ現状ヲ見ルニ法制未タ整ハス治安ノ維持全カラス排外、排貨等列国通商上ノ妨害タル事項鮮カラス從テ貴国政府ノ主張ハ帝国政府ノ十分諒解スル所ナリト雖本件ニ関スル華府會議以來ノ経緯並ニ支那側ノ要望ニ顧ミルニ此際支那ノ現状ニ於テハ近ク治外法権撤廃ノ望ナキカ如キ感触ヲ与フルハ大局上一考ヲ要スルヤニ思考ス帝国政府ノ見ル所ヲ以テスルニ法権問題ニ付テモ亦列国トシテハ出来得ル限り国民政府ノ立場ニ同情シ之カ撤廃ニ協力スルノ雅量ヲ示スコト時宜ニ適スト信ス而シテ過般法権委員會ノ事業ハ右目的ノ為貴重ナル指針ヲ与フルモノナルヲ以テ帝国政府トシテハ同委員會ノ報告ニ則リ目下ノ事態ニ適応スヘ

ヘシトハ思考セス殊ニ支那政府ニ撤廃ノ希望ヲ繋カシメテ之ヲ刺戟奨励スヘシトノ点ハ自分トシテハ全然御同感ナリ尚過日吉田次官ヨリ伺ヒタル所ニ依レハ支那ハ治外法権問題ニ付日本政府ニ対シテハ英国等ニ対スルカ如ク書面ヲ以テ申出ツル所ナカリシニ鑑ミ日本政府トシテモ書面ヲ以テ回答スル必要ナク口頭ヲ以テ意見ヲ通告スルニ止ムヘシトノコトナリシカ果シテ其ノ通リトスルモ出来得レハ其ノ口頭ノ通告ハ英国政府カ書面ヲ以テ回答スルト同時ニセラレタキコト最モ望マシト述ヘ

大臣ハ之ニ対シ御協議ノ上成ルヘク同様ナル時機ヲ選フ様致スヘシト答ヘラレタリ

最後ニ大臣ハ近来自分ノ最モ欣ヒニ堪エサルハ先刻述ヘタル「ランブソン」公使カ我公使トノ間ニ密接ナル聯絡ヲ保チ吳ルルコトニシテ日英斯ク聯絡ヲ保チテコソ初メテ支那ニ於ケル相互ノ利益完全ニ保護セラルルノミナラス同時ニ支那ハ之カ為メ反間苦肉ノ策ヲ弄スルニ由ナク結局支那ヲ救フ所以トモナルナリ即チ吾々利己ノ立場ヨリノミナラス支那及支那人ノ為ニモ日英カ歩調ヲ一ニシ行クコトハ最モ必要ナルコトト信スト陳ヘラレタルニ

英大使モ特ニ昨今条約改訂ノ問題治外法權撤廃問題等ニ付日英ハ相酷似セル地位ニ置カレ居ルニ鑑ミ相互ノ聯絡ハ容易ニ行ハレ得ル義ト信スト応酬シタリ

(昭和四年六月七日 澤田電信課長口述)

~~~~~

752 昭和4年6月7日 在上海重光総領事より  
田中外務大臣宛

孫文移柩祭参列のため南京入りした在上海大韓民国臨時政府代表帰来に関する報告

公信第六六二号 (6月17日接受)

昭和四年六月七日

在上海

総領事 重光 葵〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

孫文靈柩奉安祭へ参列ノ為メ臨時仮政府代表往来ノ件

六月一日南京ニ於テ舉行セラレタル孫文靈柩奉安祭へ参列ノ為メ当地大韓民国臨時政府代表者安昌浩ハ金弘鉞、玉觀彬ヲ同伴シ五月二十九日当地出発南京ニ赴キタル次第ハ往

電第七三六号ヲ以テ報告シ置キタルカ彼等ハ同地着ノ上国民政府ニ対シ仮政府代表トシテ参列方ノ交渉ヲ為シタルモ国民政府ハ之ヲ許ササリシ為メ単ニ参観ノ上本月六日右三名共帰来セリ

右報告ス

本信写送付先 北平 朝鮮総督府

~~~~~

753 昭和4年6月17日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛

奉天における孫文移柩祭状況報告

公第五七五号 (6月24日接受)

昭和四年六月十七日

在奉天

総領事 林 久治郎〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

故孫逸仙移靈祭状況ニ関スル件

五月二十六日より六月一日ニ亘リ当地ニ於テ行ハレタル故孫文移靈祭情况左ノ如シ

記

一、訓令

遼寧省当局ハ總理奉安委員會弁公処ノ訓令ニ基キ五月二十日訓令第五八九号ヲ以テ左ノ通令ヲ為セリ

五月二十六日ヨリ六月一日迄各戸半旗ヲ掲ケ且ツ黒紗ヲ腕ニ纏ヒ七日間歌舞音曲ヲ停止ス

二、官憲方面

一般官公衙ハ五月二十六日ヨリ半旗ヲ掲揚シ官吏ハ喪章ヲ附シ平日通り執務セリ本月一日奉安祭当日ハ長官公署ニ於テ奉安祭遙拜式ヲ舉行シタルカ来会者極メテ尠ナク単ニ學良以下省政府主席各厅长各機關首腦者駐奉軍隊長官等三十餘名ニシテ各人外国各機關ニ案内セス単ニ支那官吏トシテ遼寧郵務管理局長「ボリテイ」(伊国人)副郵務長「キーデング」(英国人)田中郵務官等ニ対シ六月一日正午ヨリ長官公署ニ於テ孫總理奉安祭舉行ニ付キ出席相成度シトノ招待状ヲ發シタルニ過キス正午田中等出席セルモ一名モ来会者モナク客厅ニ待合中舉行時間ハ午后二時ニ変更セラレタリ

當時長官公署副官ニ就キ来会者ヲ詢シタルニ本日ハ中国官吏ニ限ラレアルモ中ニハ孫文及三民主義ヲ喜ハサルモ

ノ多数アレハ出席者ハ極メテ尠カルヘシト称セリ式場ノ正面ニハ孫總理ノ肖像ヲ掲ケ且「天下爲公」「革命未成須要努力」ト大記セル扁額ヲ掲ケアリ某秘書開会ヲ宣シ孫總理肖像ニ対シ最敬礼三回ヲ為シ總理遺囑ヲ捧読シ學良之ニ花環ヲ捧ケタル後軍隊ノ哀曲奏樂アリテ秘書ノ祭文捧読アリタル後最敬礼ヲ為シ約三十分ニシテ式ヲ終リタルカ終始學良ノ態度ハ頗ル倦怠ニ見受ケラレ真ニ孫文ヲ崇拜シ居ルモノトハ思ハサレサル程ナリ其ノ他ノ各機關ハ当日事務ヲ休止シ追悼ノ意ヲ表シタルノミニテ挙式セス

三、各法団銀行

各法団ニ於テハ単ニ半旗ヲ一週間掲出シ六月一日ノミニ日休業シ挙式セス

四、各学校

各学校ハ五月二十六日以後モ平日通り登校(但シ華北運動會ニ参列セルモノヲ除ク)シ訓育時間ニ孫總理ノ移靈祭舉行ニ対シ説明シ輕拳ノ振舞ナキ様訓戒シ一週間ハ唱歌音楽等ヲ禁止シ謹慎スヘキ様命シ六月一日奉安当日ハ遙拜式ヲ舉行シ他ノ官公署ニ比シ頗ル真面目ニ挙式シタ

ル后一日休校シ二十九日ヨリ挙行シタル華北運動会モ六月一日ハ休止セリ

五、一般商民

一般商民ノ如キハ孫文又ハ三民主義ヲ理解セルモノ極メテ少ク単ニ公安局ヨリノ命ニ依リ五月二十六日以後約六割見当(表通りノミ裏通りハ掲出セス)半旗ヲ掲ケ歌舞音曲ヲ停止セルカ奉安当日ト雖モ休業セルモノナシ

六、新聞社方面

在奉天各新聞社共ニ五月二十六日以来北京ノ孫総理移靈

祭状況ヲ詳報シ或ハ論説ヲ掲ケテ国民一般ニ哀悼ノ意ヲ表スヘキコトヲ掲載シ東三省民報ヲ除ク外全部六月一日ニハ哀悼ノ意ヲ表スヘク一日休刊セリ

七、儀仗兵派遣

學良ハ総理靈柩奉安曲礼儀仗兵トシテ五月十二日騎兵三箇連五十名水兵五十名航空隊二十名飛機四架ヲ北平ニ派遣セリ

本信写送付先 在支公使 上海総領事

2 小幡公使アグレマン問題

754 昭和4年11月30日 在中国堀内臨時代理公使より
幣原外務大臣宛(電報)

佐分利公使死去に対し関税会議における同公使裏面の努力を多としその計を痛惜する中国紙社説について

北平 発

本省 11月30日後着

第一三〇三号

貴電第三四六号ニ関シ

佐分利公使ノ逝去ハ当方面ニ多大ノ衝動ヲ与ヘ二十九日以来外交団及支那側各方面ノ弔問引モ切ラス又三十日ノ内外新聞紙モ大見出ヲ以テ通信及社説ヲ掲ケ凡テ誠意ヲ以テ同公使ノ功績ヲ称ヘ哀悼ノ意ヲ表シ居レルカ例ヘハ新晨報ハ関税会議ノ際日本カ原則上関税自主ヲ承認スルニ当リ同公使裏面ノ努力カ与ル所大ナルヲ多トシ其ノ計ヲ痛惜シタル上若シ死因カ外交上何等カノ暗礁ニ起因ストセハ其ノ大和魂ニ対シ尊敬ヲ禁シ得サルカ翻テ両国国交ノ前途ヲ思フ時

誠ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリト論セリ委細郵報

尚外交部ニ対シテハ三十日当地(字分不明)案保管処ヲ通シ正式通知ヲ発シ置ケリ
上海、南京、奉天ニ転電セリ

755 昭和4年12月7日 幣原外務大臣より
在上海重光総領事 宛(電報)
在南京上村領事

小幡前駐トルコ大使を佐分利公使の後任とした
意向につき中国側態度確めの上回電方訓令

本省 12月7日前11時発

(館長符号)

帝国政府ニ於テハ佐分利公使ノ後任トシテ小幡大使ヲ派遣シ度キ意向ナル処同大使カ曾テ在支公使トシテ日支親善ノ為ニ尽瘁シタル事績殊ニ山東交渉ニ於テ王正廷ト共ニ交譲妥協ノ精神ヲ以テ難問解決ノ衝ニ膺リタルコトハ同大使ノ公正ナル対支意見ト共ニ支那当局ノ熟知シ居ル所ニシテ此ノ際速ニ在支公使ヲ得且当面ノ重要問題ノ交渉ニ膺ラシメ